

健康づくり推進へ一丸

サポーター308人が活動へ

弘前市

地域に根差した健康づくり活動に取り組む弘前市健康づくりサポーターの委嘱状交付式が30日、弘前文化センターで開かれ、2017～18年度のサポーター308人が委嘱を受けた。

市健康づくりサポーター制度は15年度創設。市内23地区の協議会から成る。

交付式では、同サポーターを代表し藤代・新和地区健康づくりサポーター協議会会長の

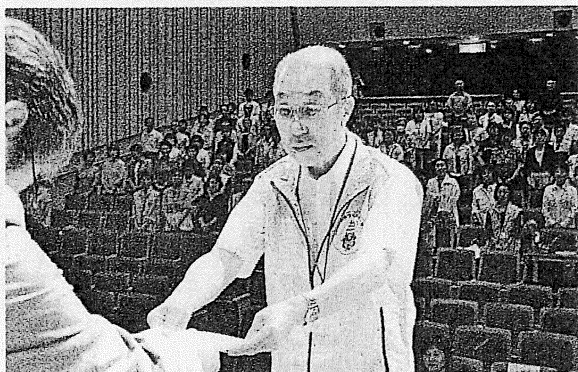
萩谷昌一さんが嵯名正樹副市長から委嘱状を受け取った。嵯名副市長は「オール弘前体制で市民の健康づくりに取り組んでいきましょ

う」と葛西憲之市長のあいさつを代読した。この後、青森医学振

興会と市の共催で講演会が開かれ、同会理事の若林孝一弘前大学医学部長、柔道家古賀稔彦氏が講演した。

同サポーターの任期は7月1日から19年6月30日まで。年4回の研修会で学ぶ健康づくりのための知識を実践し、健康づくり事業などの周知を促進する。

（船越太郎）



サポーターを代表して嵯名副市長（左）から委嘱状を受ける萩谷さん